

FREAK ラチェット式ラッシングベルト 取扱説明書

取説 No: CELB-IM

この度は弊社商品をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。

※ご使用前にこの取扱説明書を十分にお読みの上、正しい取扱方法によりご愛顧下さいますようお願い申し上げます。

※この取扱説明書は大切に保管頂き、ご使用前に再度ご確認ください。

※この取扱説明書ではラッシングベルトの使用基準事項を「危険」「注意」の2つに区分しています。表示の意味は下記の通りです。

危険 取扱いを誤った場合に、危険な状況となり、使用者が死亡、または重症を負うことになる場合

注意 取扱いを誤った場合に、危険な状況となり、使用者が怪我を負う恐れのあるもの、または製品等の物的損傷を招くことになる場合

※なお、「注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な事故につながる可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

ラッシングベルトの使用基準

使用上の注意

危険

- ・本製品の使用に際し、安全荷重内で使用方法や本数を考慮し、余裕のある製品を選定してください。
- ・また、商品ラベルをご確認の上、ラベル記載の最大使用荷重内で使用してください。
- ・本製品は玉掛け等に使用する吊り具ではありません。荷を吊り上げる作業などは行わないでください。
- ・取扱説明書及び注意事項の内容を熟知しない人は作業しないでください。
- ・100℃以上の高温、-30℃以下の低温の環境では使用できません。また、50℃～100℃未満の環境で使用する場合は、最大能力を50%軽減して使用してください。
- ・酸やアルカリ等の化学薬品が付着する条件では使用しないでください。
- ・作業者は必ず点検を実施してから作業を始めてください。

作業について

危険

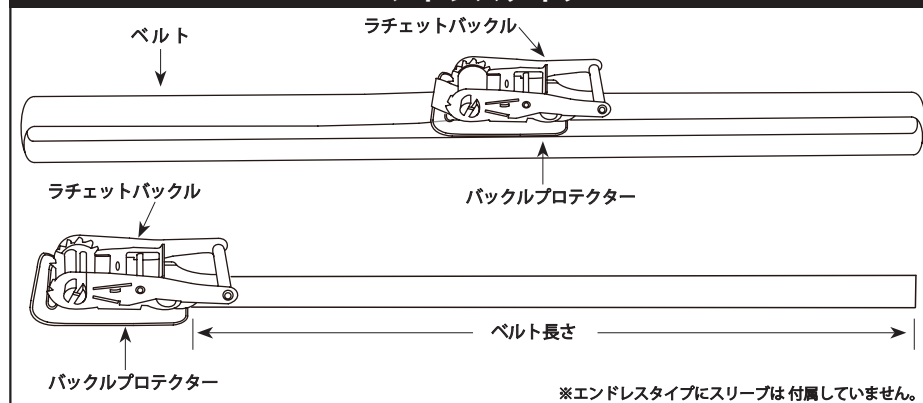
- ・点検の結果、廃棄することになった製品は使用しないでください。
- ・廃棄することになった製品を補修したり、使用荷重を減らすなどして再使用しないでください。
- ・ラチェットバックルを角などに当てて使用しないでください。
- ・角張った荷にはコーナーパッド等の当てものを必ずご使用ください。
- ・バックルが直接荷物に接触する場合は、損傷を防ぐためにプロテクター等の当てものを使用してください。
- ・ベルトを結んだり、ねじれた状態、またはお互いに引っかけた状態で使用しないでください。
- ・先端金具の形状やサイズが合わない所に引っ掛けたり固定しないでください。先端部が外れて荷が崩れたり、金具の破損や変形の恐れがあります。
- ・荷締め作業は足場の良い所で、固定側のベルトが下側または手前側になるように取り付けて安全に行ってください。
- ・ラチェットバックルに調節側ベルトを巻き過ぎるとすり傷などの原因になります。ベルト保護のため、余分な長さは調節してから使用してください。
- ・締め付けの際、作動レバーに棒などを差し込みテコのようにして締めたり、足で踏んで締めたりしないでください。金具の変形や破損の原因になります。
- ・ベルトは巻き取り軸に最低2巻以上は巻き取ってください。
- ・ベルトの末端部は抜け防止のため巻き取らないでください。
- ・荷物が確実に固定できているか、ロックはかかっているかを確認してから輸送等の作業を行ってください。
- ・走行中の振動で荷物が移動してベルトにゆるみが発生する可能性があります。ゆるみ防止のため増し締めは十分に行ってください。
- ・本製品を持ち運ぶ際、投げつけたり地面や床を引きずったりしないでください。
- ・荷を縛ったまま、長期間放置しないでください。

注意

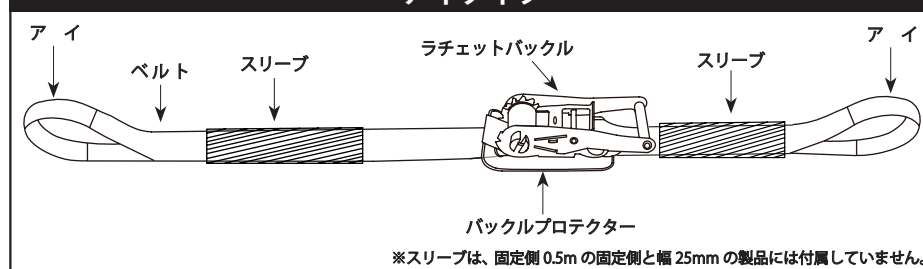
- ・作業を行う場合、辺りに障害物があれば整理し、安全な環境で作業してください。
- ・作業開始時には、周りの人に作業開始を知らせてください。
- ・作業時には、必ず軍手等の保護具を使用してください。

ラッシングベルトの各部名称

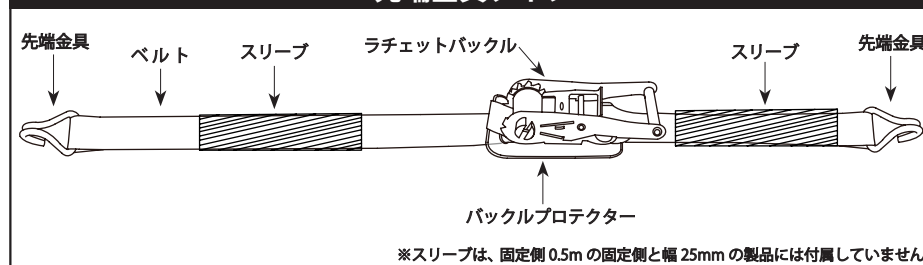
エンドレスタイプ



アイタイプ



先端金具タイプ



危険

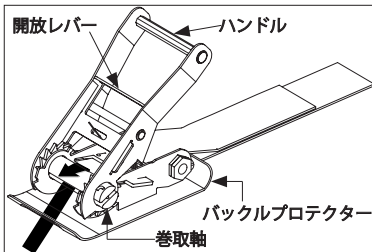
ご使用前に、固定側に縫い付けている商品ラベルをご確認ください。
記載している最大使用荷重内で余裕をもって作業してください。

輸入総販売元 株式会社フリーク 〒599-8253 大阪府堺市中区深阪6丁2番28号

MADE IN CHINA

ラッシングベルトの操作方法

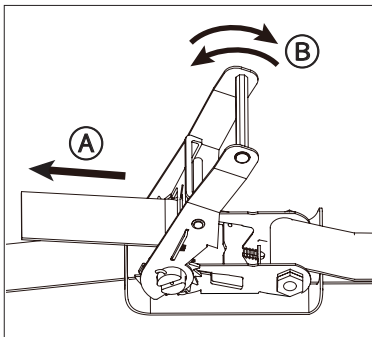
<ラチェットバックル式>



1 ベルトの通し方

ベルトに縫い付けている縦ライン側を上にし、バックルプロテクターの下面からバックル本体にある巻取軸にベルトを通します。

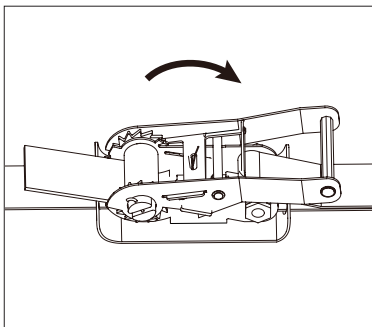
※ベルトの裏表を間違わないようご注意ください。



2 ベルトの巻き方

通したベルトを矢印Aの方向へ引っ張り、緩みをとります。緩みをとったまま ハンドルを矢印Bの様に反復させるとベルトが徐々に締まっていきます。ベルトは巻取軸に最低2巻き以上巻き取ってください。巻き足らないとベルトが緩む原因になります。

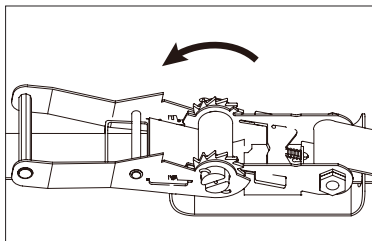
※巻き取り過ぎにもご注意ください。ベルトがほどけなくなったり、固縛したい物や本製品の損傷の原因となります。



3 ベルトの固定

巻き終わったら、ハンドル中央部の開放レバーを引いて、ハンドルを矢印の方向へ完全に倒しロックしてください。

※ハンドルがロックされ動かないか確認してください。
※ベルトの緩みがないか確認をしてください。
緩みがある時は、「2 ベルトの巻き方」から再度やり直して下さい。



4 ベルトの緩め方

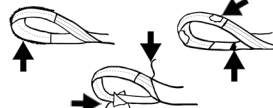
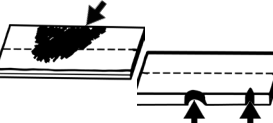
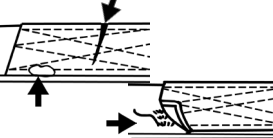
開放レバーを引きながらハンドルを矢印の方向へ180度開くと巻取軸のロックが開放されます。ベルトが緩むので、ベルトを引っ張りほどいてください。

ラッシングベルトの管理の仕方

ラッシングベルトは誤った使い方や日常点検や定期点検を怠ると危険が生じ、重大な事故につながります。正しい使用と正しい管理が安全を守るポイントです。

- ・管理責任者を決め、作業者には教育による作業基準の徹底を図る。
- ・職場に適した作業基準や点検基準を決める。
- ・日常点検は毎回使用前に定期点検は通常1ヶ月に1回を目安に行う。(使用環境などにより期間を縮める。)
- ・それぞれに管理番号を決め、台帳で管理する。
- ・ラッシングベルトは消耗品です。作業環境により一定の使用期限を定め、廃却・新品との交換を行う。

点検及び廃棄基準表

点検項目	点検方法	廃棄基準	
アイ ※アイタイプの場合	目視		■ 織り目が分からないほどに毛羽立ちし、たて糸の損傷が認められるもの。 ■ 目立った切り傷、すり傷、引っ掛け傷などが認められるもの。 ■ 縫糸が切断して、ワッカの形状が保たれないもの。
	動作確認	—	■ 動作不良および動作不能のもの。
金具	目視		■ ラチェットバックルや先端部に著しい変形、摩耗、腐食、亀裂などの外観異常が認められるもの。 ■ 破損および部品の欠損したもの。
	動作確認	—	■ 動作不良および動作不能のもの。
ベルト	目視		■ 全幅にわたって織り目が分からない程に毛羽立ちし、縦糸の損傷が認められるもの。 ■ 目立ったきり傷、すり傷、引っ掛け傷などが認められるもの。
縫製部	目視		■ 目立ったきり傷、すり傷、引っ掛け傷などが認められるもの。 ■ 縫糸が切断して、ベルトの剥離が少しでも認められるもの。 ■ 幅方向に幅の10%、厚さ方向に厚さの20%相当のきり傷、引っ掛け傷の認められるもの。
その他の外観異常	目視	■ 熱、薬品などによる著しい変色、着色、溶融、溶解などが認められるもの	
使用期間	管理台帳・表示などの確認	■ ラッシングベルトの使用状況によって、一定の使用期限を定め、目立った損傷や外観に異常がなくても使用開始後の期間がこれを超えるもの。	

使用後の手入れや保管について

⚠ 危険	・本製品は絶対に改造をしないでください。 ・サビや腐食、劣化の原因になりますので野外に放置しないでください。 ・また室内でも熱、日光、薬品などの影響を受けない所で保管してください。 ・本製品は消耗品です。作業環境により使用期限を定めてください。 ・ベルト部分に油をつけないでください。ベルトが滑り、荷が崩れることがあります。
	⚠ 注意 ・スムーズな作動のためにハンドル部分には定期的にマシン油を注入し、注入後は余分な油を拭き取ってご使用ください。 ・使用後は汚れや水分を拭き取ってから保管してください。 ・ハンドル部分にサビや不純物が付着している場合は、ブラシなどできれいに清掃してください。